

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校

学校番号 57

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>人間尊重の精神を基調として、知・徳・体に調和のとれた人間性豊かな生徒を育成し、将来国家社会の構成者として、一人一人がその能力と特性を発揮し、有為な担い手となることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史と伝統を重んじ、切磋琢磨の精神に則り、自学自習の気風を高揚する。 2 愛情と信頼を基盤として、自由にして節度ある人間関係を醸成する。 3 健康と体力を増進し、確乎不拔の精神と創造性豊かな実践力を育成する。 	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートをはじめとする各種アンケート結果から、生徒および保護者の本校の学校教育に対する評価は高く、概ね信頼を得られているものと思われる。 ・メール配信は有効に活用しているという保護者は多く、学校からの連絡文書等も保護者に届くようになってきた。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革等を踏まえたアクティブ・ラーニングの導入に向けたカリキュラム等の研究開発 ・ホームページやメール配信の充実に努め、情報発信力を高める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価や職員間の授業交流により、指導方法の向上を図り、授業改善と学習意欲の向上に努めている。 ・教育課程委員会・学習指導委員会・行事検討委員会等を、年間計画に組み込んで、継続的に教育課程等の改善に努めている。 ・ホームページの更新や掲載を速やかに行い、閲覧回数を増やす。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 6月と11月にそれぞれ2週間の授業交流期間を設置し、教科会等で研究する。 (2) 生徒による授業評価を実施する。	(1) 授業評価の結果分析 (2) 家庭学習時間調査 (3) 全国模試の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流と生徒による授業評価の実施 ・習熟度別・進路希望別授業の継続 ・ホームページの更新ときめ細かいメール配信 	<ol style="list-style-type: none"> ①アンケート結果 ②柔軟な教育課程の編成 ③アクセス回数 	<p>A Ⓑ C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年からの50分×7限（5日間）授業は、スムーズに運用できている。</p> <p>○各種会議の柔軟な運用により、生徒の実態を常に共有しつつ、授業改善をはじめとする課題に対応している。</p> <p>▲本校の生徒の実態と進路希望を踏まえたうえでの課題解決型のアクティブ・ラーニングの導入など、より生徒の学ぶ意欲を引き出すための授業改善に努めていく必要がある。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50分×7限（5日間）授業の枠組みを活かした授業改善を、今後も学校全体で継続していく必要がある。 ・50分×7限授業の実施に伴い、土曜講座や放課後補習のあり方の見直しをしたが、今年度の成果と課題の検証をしたうえで、より効果的な内容にしていく必要がある。 		

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> すべての項目について、90%をこえる生徒が学校側の指導を肯定的にとらえている。 保護者からの評価については、「高校生としてふさわしい服装頭髪等の指導」「マナーや社会規範を身につけさせる指導」の項目において、肯定的な評価が90%をこえている。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇高等学校教育指導の方針と重点に則り、様々な教育活動を通して、生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、明るく活気に満ちた校風を樹立できるよう指導する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による当番制登下校指導と生徒指導部による校門指導 「授業規律の確立」（ベル席・端正な身なり・きれいな教室） 全職員による指導体制の確立 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 遅刻の防止といじめのない学校生活 (2) フォーマルウィークと交通安全指導 (3) 共通理解の確立	(1) クラス居心地度調査(年3回) (2) 品格ある身だしなみと交通事故の減少 (3) 研修会やケース会等の実施など		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> 校門指導とクラス居心地度調査 交通安全講話や登下校指導、携帯モラル講座の実施 MSリーダーズや育友会と連携した様々な啓発活動 	① 過去5年間との比較 ② 事故件数の減少やネットトラブルの回避等 ③ 各種アンケート結果の年度比較、ボランティア活動への参加、苦言等の減少	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D	
11	成果・課題	○生徒は大変落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、服装頭髪等についても年々良くなってきている。また今年度は育友会の協力もえて、Wonderful Night(家でスマホを使用しない夜)を月1回実施している。またスマホ依存度テストやMSリーダーズによるスマホ利用に関してのプレゼンなども行った。 ▲50分7限授業導入で始業時間が5分早まったこともあり、遅刻者が少し増加傾向にある。		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻の多い生徒や服装等に問題のある生徒については、効果的な個別指導を行っていききたい。またスマホ利用に関しては、「斐高生のきまり」の徹底と様々な試みを実践し、生徒たちの意識を高めていきたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年6月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を見ていると、スマートフォンなど適切にマナーを守って使用し、生徒の自覚の高さがわかった。 Wonderful Nightの実施当日に「すぐメール」等で保護者に通知し、協力を求めると効果的ではないか。

2	評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者対象アンケートの進路関係の項目については、生徒・保護者ともにおおむね9割を上回る肯定的評価を得ている。 ・「個々の生徒の進路希望に沿った適切なアドバイス」への保護者認知度が上がるとさらによい。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 確かな学力の育成、コミュニケーション能力の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・確かな基盤となる知識を保証する学習指導を実施する。 ・大学や育友会、卒業生組織の協力により生徒の視野を広げる体験学習を意識的に実施する。 ・生まれ育った地域から学び、地域社会を担う能力を培う活動を実施する。 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や他分掌と情報を共有し、連携を密にする。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 放課後補習、土曜講座、夏季講座等の実施 (2) 講話・講義・講座・説明会等の開催 (3) 「ふるさと創生起業提案コンテスト」の実施と事前学習会の開催	(1) 生徒のアンケート、感想文 (2) 保護者、教員のアンケート結果		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	・各学年会の協力の下、上記6の取り組みはそれぞれ積極的に実施されている。	①生徒の力を伸ばすことができたか ②生徒が積極的に参加したか ③生徒の視野は広がり、コミュニケーション能力は身についたか	Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D	
11	成果・課題			総合評価
	○良い学習支援体制が出来たと思う。今後はさらに時期に応じて必ずつけさせたい力を教科・学年と共に考え、より体系的な学習支援体制となるよう改良していきたい。 ○多くの進路関係行事を実施し、情報発信ができた。次年度以降についてより良い実施が出来るよう、振り返りをしっかりと行いたい。			Ⓐ B C D
12	来年度に向けての改善方策案			
	・3年生の入試日程に沿ってその都度適切な情報を提供し、最大限の力が出せるようサポートする。 ・次学年へのよりよい「つなぎ」となる指導ができるよう、1、2年生について手立てをうつ。			

II 学校関係者評価

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイレベルな大学へ進学を希望する生徒への指導も継続実施してほしい。 ・素晴らしい卒業生が数多くいるのでそういった方のお話を生徒に聞かせるのも効果的である。 ・地域活性化の一翼を担う「起業提案コンテスト」やインターンシップなど、ぜひ充実させてほしい。

2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒を中心として全校体制で取り組まれており、保護者の協力や理解も得られている。 ・学力の伸長だけでなく、健全な身体、豊かな心を含めた人間を育成しようとする校風が感じられる ・生徒会活動や部活動は活発に行われており、生徒の充実感も高い。学業とのバランスもとれている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校行事や生徒会活動等の諸行事が円滑に行われるよう努める。特にスタディサポーターを通して生徒のボランティア精神の涵養を促し、地域の小中学校との連携を深める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌や学年との連携を図る。 ・生徒会執行委員や各実行委員会との連絡調整が円滑に行われるようホームルーム委員等との連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒会執行委員及び実行委員会の充実 (2) 全校体制の組織づくり・運営	(1) 生徒・職員アンケート結果の分析 (2) 生徒会執行委員・議会等の意見の集約	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭等は、実行委員会や生徒会執行委員を中心として活発に運営されている。 ・部活動加入率は96%をこえ活発に活動しており、東海大会等への出場を果たしてしている。 ・スタディサポーターにおいて、対象地域や対象校種を拡大し4回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事は洗練されており他との調和が図られているか ② 部活動は適切に運営されているか ③ ボランティア精神の涵養は図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭や体育祭は、実行委員会を中心とした企画・運営がなされ、全校生徒がより良いものを作り上げようと参加した行事となった。 ○高山市議会議員との意見交換会や創立130周年記念式典では、代表生徒らしく堂々とした発表や運営がみられた。 ○スタディサポーターでは、飛騨全域の20中学校、高山市内1小学校を対象に延べ400名を超える生徒が参加し学習支援などを行った。 ○部活動等において、レスリングの高校総体準優勝をはじめ体育系・文化系ともに活躍がみられた。 ▲生徒会活動・部活動と学業などとのバランスをうまく保つことができるよう、支援していきたい。 ▲生徒会活動を日常の学校生活や地域との連携にも目を向けて取り組ませたい。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭などの諸行事に向けて、実行委員会等を早めに立ち上げ生徒の主体性を尊重しつつ職員等との連携を密にして行事の質的向上を図る。 ・スタディサポーター活動をより洗練させて、ボランティア精神の涵養を一層促していくとともに、地域との結びつきを密にしていく。 ・部活動について、本校の実情を踏まえつつ豊かな人間形成の観点から、生徒の主体性をはぐくみながら適切な運営を図る。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年6月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（蜻蛉祭を見学して）展示は、どの生徒も生き生きと楽しそうに活動しているのがよかった。投票箱を設置するなど、自分たちの企画に対して一方通行にならず、客観視し向上しようとする工夫は評価できる。軽音楽部のライブは熱気があり、生徒のエネルギー発散の場となっている。 ・校内ですれ違う生徒の多くはおおむね自然な挨拶ができており好感が持てるが、もっと多くの生徒ができるようになるとうい。

2	評価する領域・分野	◇ 図書		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特に大きな問題意識は持たれていないが、学習や仲間との時間を持てる場として認識されている。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・司書が代わった事により、新鮮な図書委員会活動と、利用しやすい環境・運営を目指す。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・各クラスの図書委員の活動を通じ、多くの生徒に読書を勧める。また、ホームルーム・授業での図書館の活用を増やす。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	・生徒の読書活動を促すために、行事や季節などを利用する。また、図書館の利用簿を見直すなどし、先生方にも図書館の利用を働きかける。文化祭など、チャンスを生かして図書館のPRに努める。	・各クラスの図書の貸出し数の確認、図書館の利用頻度の確認		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	・文化祭への積極的参加・古書譲り渡し ・ロングホームルームや授業での図書館の活用	・生徒が中心であったか ・利用回数及び利用状況	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A B C D</p>	
11	成果・課題	○今年度は司書が代わったことにより、書物の展示など、新鮮な風が流れたように思われる。また、図書委員も積極的に活動し、文化祭へも昨年に続き、委員会として参加を果たすことが出来た。また、ロングホームルームでの図書館の利用も増えた。放課後など、多くの生徒が学習や時間待ちなど、様々な形態で図書館を利用している。 ▲コミックばかりに偏っている生徒は昨年と比べると減少したが、未だに図書館を利用したことのない生徒をいかに図書館へ誘うか。居心地の良さや、読書の素晴らしさを伝えて行く方法を模索中である。		総合評価 A Ⓑ C D
12	来年度に向けての改善方策案 図書館が居心地の良い空間であることを確保しつつ、なるべく教員の姿を見せ、語りかけることにより、コミックだけでなく、他の作品にも興味が持てるようソフトな指導を行いたい。			

2 評価する領域・分野	◇ 教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談事に親切に対応してくれる教員がいる」に関して、90%以上の生徒が肯定している。 ・「学校では個々の生徒に対して適切な教育相談的な指導を行っている」に関して、80%以上の保護者が肯定しているが、わからないと答えた保護者が15%おり、何らかの広報や報告が必要と思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「教育相談の心を校内に広めよう」（校内支援システムの確立と充実）学年会、教科担任会議、教育相談委員会、職員研修等による教育相談体制の充実と連携強化を図り、担任・生徒・保護者への支援を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームを適宜編成し、具体的な支援方法を研究する。 ・教員間の情報交換や共通理解を深める。 ・専門家によるスクールカウンセリングを活用し、支援の充実を図る。 ・ひとづきあいアンケート「せらぷらす」を実施し、クラスの把握や生徒支援に役立てる。 ・人権教育を推進し、広く人権に対する意識の高揚を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任や学年会および関係分掌等と連携を積極的に実施。 (2) 生徒や保護者へのサポートの実施。 (3) 外部機関の有効利用 (4) せらぷらす検査結果や事例研修会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> (1・2・3) 意思疎通の状況、生徒支援状況 (4) 検査の分析と研修会参加者アンケートの分析 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年団と連携、情報交換を行った。 ・生徒や保護者との懇談や家庭訪問を適宜実施し支援を図った。 ・外部機関や校内の生徒指導部、保健室と情報交換をし、連携を図った。 ・教員研修会を実施し、情報交換と支援を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制は適切であったか ・生徒や保護者の思いに叶うものであったか ・連携がとれ、情報交換や協力体制ができていくか ・研修会の評価 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障がいをもつ生徒に関する対応と支援策が継続され、徐々にではあるが学校生活に向上がみられる。 ○他の分掌等との情報交換会が設置されていること。 ○積極的に外部機関や専門家との連携をとることができた。（スクールカウンセラーの活用や出身中学訪問による情報収集） ▲より良い支援体制作りと支援の充実を図る。 ▲1、2年生に不登校傾向の生徒が増加しつつある。その支援策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討、研究を行う。 ・必要に応じて、ケース会議を開き、校内での連携と支援に努める。 ・配慮を要する生徒の早期発見とその生徒への適切な対応と支援に務める。 		

2	評価する領域・分野	◇ 保健厚生		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケート結果から、校内美化については昨年に引き続き概ね良い評価を得ている。各学年で実施している朝の廊下掃除の成果であると思われる。今後も継続して実施していきたい。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の清掃活動の充実 ・職員による心肺蘇生法の習得 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒・全職員による清掃活動の実施 ・心肺蘇生講習会への全職員参加 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎日の清掃活動と厚生委員によるゴミの分別収集確認 (2) 保健委員・厚生委員による点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 掃除を丁寧に隅々まで行う (2) ゴミの分別をきちんと行う (3) 点検表の集計 		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の時間には生徒・職員全校体制で自覚と責任を持って取り組む ・ゴミの分別は各クラスで確実にやり、厚生委員が点検・指導する ・保健委員が日常の教室点検を、厚生委員が掃除点検をそれぞれ行う ・全職員による心肺蘇生法講習会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①掃除が行き届いているか ②ゴミの分別がきちんと行われているか ③点検結果を考察する ④心肺蘇生を理解できたか 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D 	
11	成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○厚生委員や保健委員は積極的に役割をこなすことができた。 ○定期考査中も掃除時間を設定して校内美化に取り組むことができた。 ○職員による心肺蘇生講習会では、積極的な取り組みがみられ、不測の事態にも対応できる準備ができた。 ▲まだまだゴミの量が多いので（ゴミ袋の消費が多い）ので、今後も更なるゴミの減量化に取り組むたい。 		<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルボックスの設置などを行ってはいるが、まだまだ紙ゴミが多いので、それらを減らしゴミの減量化に努めたい。 ・今後も考査（定期・課題実力）中の掃除時間を設定して校内美化に取り組む。 		

II 学校関係者評価

実施年月日： 平成28年6月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内美化については、概ね良い評価をいただいているが、さらに細かいところまで気を配り、美化に努めていきたい。

2	評価する領域・分野	◇ 渉外	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育友会主催の各種行事において役員会・学年委員会を中心に積極的に取り組んでいるが、一般の会員の参加率は必ずしも十分とはいえない。 ・ 学校行事の文化祭・体育祭・マラソン大会への参加は多数ある。 ・ 有斐会理事会・学年代表会の出席者が固定化していたが、今年度、若い理事が9名増え、活性化が期待される。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 130周年記念事業の成功 ・ 育友会活動及び同窓会活動の活性化を図る。 	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加意欲を高めるための方策を個々の行事に即して検討していく。 ・ 行事後のアンケートを分析し、会員の要望を明らかにしていく。 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 130周年記念事業の成功のため、実行委員会が主導となり、全校一丸となって取り組む。 (2) P Tフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法の検討により、参加意欲を高める。 (3) 学年代表・役員の見直しを図る。 (4) 理事会・役員会の予定を早めに決め、参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) ミス・トラブルがなく式典が行われる (2) 式典・講演に対する感想 (3) 活発な意見交換と保護者の満足度 (4) 個々の学年代表が機能しているかの確認 (5) 若い世代の参加 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 130周年記念事業に向けて、実行委員会が入念な準備をして当日を迎えた。 ・ P Tフォーラムでは昨年の事後アンケートを受け、春先より実行委員会で講師選考、進行方法や事前アンケートをどのように活かすかを検討し、参加者が何を期待しているかを考えた計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①滞りなく式典が進行したか ②活発な意見交換が行われたか アンケートによる評価	A ② C D ① A B C D
11	成果・課題	総合評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 130周年記念式典は滞りなく盛大に行われ、天野浩氏の記念講演会もわかりやすい内容で参加者の評判が良かった。 ○ P Tフォーラムは国公立大学進学者、私大先願者、浪人経験者を講師とし、講話のあとは、質疑の時間とした事で一方的にならず、事後アンケートの評判も良かった。 ▲ 育友会行事が盛大に行われるために役員や職員の大きな負担がある。 	A ② C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ P Tフォーラムについて良い評価をいただけたのは、講師選考、進行についての事前準備、講師とのメール等による事前打ち合わせなどにより、当日、良い雰囲気で行われたことによる。多くの人の協力を必要とするので、早めの計画に心がけたい。 ・ 同窓会に若い世代が理事として参加したことで、組織の在り方や運営を改善する機会となるとよい。 		